

---

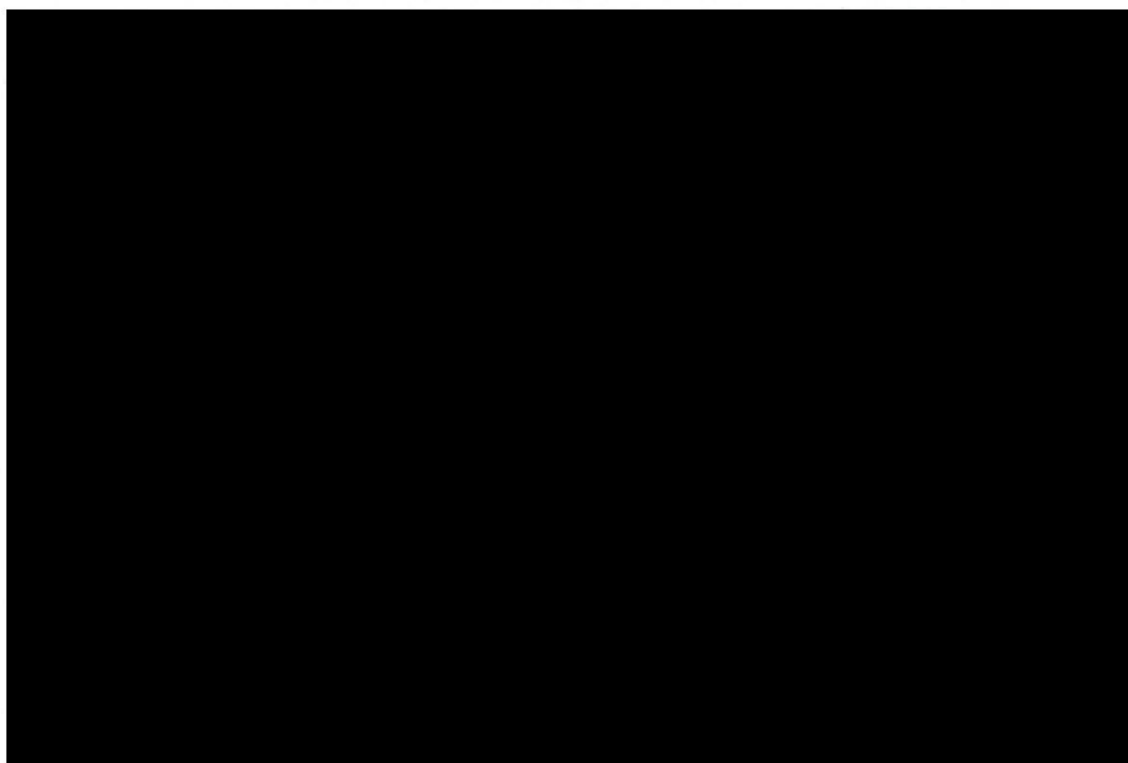
平成31年度京都女子大学大学院・発達教育学研究科（博士前期課程）

教育学専攻入学試験（春季）試験問題

【専 門】No.1

---

- (1) PISA2015 年調査において、協同問題解決能力調査がコンピュータ使用型調査（コンピュータ上の仮想の人物である会話エージェントと、ある課題について対話するチャット形式による調査）として実施された。以下に、結果をまとめたグラフを示す。グラフにおけるレベル2は、実生活と社会生活で効果的、生産的に能力を発揮し始めると判断される習熟度レベルである。この結果からどのようなことが言えるか、また、言えないのかについて論述しなさい。



（出典：「OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）2015 年協同問題解決能力調査のポイント」，国立教育政策研究所）

---

平成31年度京都女子大学大学院・発達教育学研究科（博士前期課程）

教育学専攻入学試験（春季）試験問題

【専 門】No.2

---

（2）近年、日本の学校でも外国人児童生徒が増加している。こうした外国人児童生徒には、日本語指導だけでなく、文化の違いに起因する様々な問題に対応するために学校内外で様々なサポートが必要とされている。外国人児童生徒に必要なサポートについて論述しなさい。

（3）次の語句を説明しなさい。

①系統学習と経験学習

②デジタル・シティズンシップ